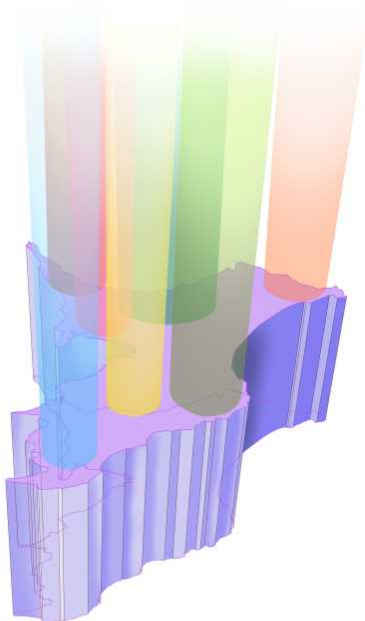




# 県立学校改革推進プランに係る評価

(平成28年度再編実施分)



令和元年9月

教育政策課



# 目次

I	評価の概要	1
1	評価の目的	1
2	評価の進め方	1
3	評価対象	2
4	評価区分とスケジュール	3
II	評価	5
1	普通科及び普通系専門学科・コース	
(1)	グローバル化に関する学び	5
2	職業系専門学科・コース	
(1)	理数工学科	7
3	総合学科	
(1)	総合学科	9
4	社会のニーズに対応した教育	
(1)	単位制高校	11
(2)	中高一貫教育校	13
5	今後の取組の方向性	15
6	外部・関係団体の意見から	16
7	評価のまとめ	17
III	資料	18
1	生徒及び保護者アンケート調査	18
2	再編実施校聴き取り調査及び中学校アンケート調査	23
3	外部・関係団体の意見	29
4	基礎データ	34

# 県立学校改革推進プランに係る評価（平成28年度再編実施分）

## I 評価の概要

### 1 評価の目的

県立学校改革推進プラン（以下「プラン」という）の実施状況、及び成果や課題を把握し、より一層魅力ある県立学校づくりを推進するとともに、今後の高校改革に係る計画の策定に資することを目的として評価を実施します。

### 2 評価の進め方

#### （1）調査の時期

再編の実施年度から3年が経過し、初めての卒業生が輩出される年に合わせてアンケート調査を実施するとともに、再編実施校から聴き取り調査を行った上で、外部・関係団体から意見を聴取し、評価を取りまとめます。

定時制・通信制高校においては、4年が経過するまでの卒業生が輩出される年に合わせて各種調査を行います。

#### （2）アンケート調査、聴き取り調査の実施

ア 再編実施校の生徒及び保護者を対象に、アンケート調査を実施します。なお、コース設置の場合には、コース選択者以外にも抽出してアンケート調査を実施します。

イ 再編実施校の近隣中学校にアンケート調査を実施します。

ウ 再編実施校を訪問して、聴き取り調査を実施します。

#### （3）評価の作成

ア 調査結果は、「普通科及び普通系専門学科・コース」「職業系専門学科・コース」「総合学科」「社会のニーズに対応した教育」「全日制高校の配置」「定時制・通信制高校の配置」の再編種別に整理します。

イ 聴き取り調査等を踏まえ、「実施状況」、「成果と課題」及び「今後の取組の方向性」について取りまとめます。併せて、資料としてアンケート調査の結果等を取りまとめます。

ウ 取りまとめた内容について、教育関係団体、産業関係団体、その他外部・関係団体から意見聴取を行います。

#### （4）評価の公表

評価結果については、「教育委員会の点検・評価」、及びホームページで内容を公表します。

### 3 評価対象（平成 28 年度再編実施分）

今回は、平成 28 年度に再編を実施した以下の 5 校について評価したものです。

#### （1）普通科及び普通系専門学科・コース

ア グローバル化に関する学び（松尾高校）

#### （2）職業系専門学科・コース

ア 理数工学科（千葉工業高校）

#### （3）総合学科

ア 総合学科（小金高校）


#### （4）社会のニーズに対応した教育

ア 単位制高校（成東高校）

イ 中高一貫教育校（東葛飾中学校・高校）

#### 4 評価区分とスケジュール

再編年度	評価年度	普通科及び普通系専門学科 ・コース	職業系専門学科・コース	総合学科	社会のニーズに対応した教育	全日制高校の配置	定時制・通信制高校の配置
H24	H26				泉 ・地域連携アクティブスクール 天羽 ・地域連携アクティブスクール		
H25	H27	柏井 ・国際コミュニケーションコース	松戸向陽 ・福祉教育拠点校 ・福祉コース				
H26	H28	千葉女子 ・教員基礎コース 東葛飾 ・医歯薬コース 佐倉 ・理数科 長狭 ・医療・福祉コース ＜医療コース＞ 安房 ・教員基礎コース	千葉工業 ・工業教育拠点校 ・コンソーシアム 長狭 ・医療・福祉コース ＜福祉コース＞		銚子 ・防災の学び 鶴舞桜が丘 ・緑地管理コース		
H27	H29	成田国際 ・グローバルスクール	茂原樟陽 ・農業教育拠点校 小見川 ・福祉コース		船橋古和釜 ・地域連携アクティブスクール 流山北 ・地域連携アクティブスクール 銚子商業 ・海洋環境コース 館山総合 ・観光の学び ・栽培環境コース	大原 ・統合	
H28	H30	松尾 ・グローバル化に関する学び	千葉工業 ・理数工学科	小金 ・総合学科	東葛飾 ・中高一貫教育校 成東 ・単位制		
H29	R1 通信 R1 R2	匝瑳 ・国際に関するコース 木更津 ・理数科	佐倉西 ・福祉コース				館山総合 ・通信制協力校

 本評価対象校

再編 年度	評価 年度	普通科及び 普通系専門学科 ・コース	職業系専門 学科・コース	総合学科	社会のニーズに 対応した教育	全日制高校 の配置	定時制・ 通信制高校 の配置
H30	R2	我孫子 ・教員基礎コース 君津 ・教員基礎コース	千葉商業 ・学科再構成 流山 ・学科再構成 成田西陵 ・学科再構成 下総 ・学科再構成 多古 ・学科再構成 旭農業 ・学科再構成 大網 ・学科再構成 茂原樟陽 ・学科再構成 君津商業 ・学科再構成 鶴舞桜が丘 ・学科再構成		安房 ・単位制		
H31	R3	市川南 ・保育基礎コース	我孫子東 ・福祉コース	幕張総合 ・総合学科	市原八幡 ・防災の学び	市原 鶴舞桜が丘 ・統合	
R2	R4 定時 R4 R5	成田北 ・医療コース 四街道北 ・保育基礎コース	犢橋 ・福祉コース 天羽 ・工業基礎コース 姉崎 ・ものづくりコース				千葉工業 ・学科再構成 市川工業 ・学科再構成 木更津東 ・学科再構成
R3	R5					君津 上総 ・統合	
R4	定時 R6 R7						船橋 行徳 ・統合 佐倉南 ・三部制定時

## II 評価

### 1 普通科及び普通系専門学科・コース

#### (1) グローバル化に関する学び

##### 普通科の具体計画の方向（プランより抜粋）

- 多様な生徒が入学する実態を踏まえ、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図りながら、能力・適性に応じた教育を行うとともに、特色ある学校づくりを推進するため、地域や学校及び生徒の実態に応じて、教育課程や教育内容、指導方針の工夫・改善などを行います。

#### ア 第3次実施プログラムにおけるグローバル化に関する学びの導入

##### (ア) 対象校

- ・松尾高校 普通科

##### (イ) 再編の内容

- ・グローバル化の進展など社会の変化を踏まえ、郷土と国を愛する心を育むとともに、世界を舞台に活躍できるグローバル人材を育成するため、松尾高校にグローバル化に関する学びを導入します。

#### イ 実施状況

- ・平成 27 年度から文部科学省のスーパーグローバルハイスクール（SGH※）指定校になり、「地域から考えるグローバルエイジング（GA）【地球規模の高齢化】」をテーマとして、調査・研究を実施しています。
- ・1年生全ての生徒に「地域フィールドワーク」を実施し、地域社会の問題点を研究し、地域福祉の充実や地域活性化等に関する課題研究のテーマを生徒自ら設定、発表することで研究活動の基礎を身に付けています。
- ・2年生からコース選択し、GA選択者が「地域と共に実践する少子高齢社会の問題等への取組」として、持続可能な社会実現に向け、グローバルな視点から研究した成果を課題研究発表大会で発表しています。
- ・グローバル化に関する学びの編成として、平成 30 年度入学生から、3学年の選択科目に「グローバルコミュニケーション」（2単位）を導入しました。

※ SGH【Super Global High school の略】：高校におけるグローバル・リーダーの育成を通して、生徒の社会に対する関心と深い教養、コミュニケーション能力、問題解決能力等の国際的教養を身に付け、将来国際的に活躍できるグローバル・リーダーを育成するために文部科学省が指定している学校





障がい者スポーツを通じて、  
山武市内の高齢者や障がい  
者と生徒が交流



ソフトボール英国  
代表に「やさしい  
日本語」カードを  
使って日本語を教  
える生徒

## ウ まとめ

### (ア) 成果と課題 (○成果、●課題)

○異文化理解力やコミュニケーション能力が著しく向上したことで、国際交流を行う素地ができました。

#### [短期留学者数の推移]

年 度	人数 (行先・学年・人数)	備 考
平成 26 年度	0 人	
平成 27 年度	5 人 (タイ・2 年生・5 人)	SGH指定
平成 28 年度	10 人 (タイ・1 年生・5 人、スウェーデン・2 年生・5 人)	学び導入
平成 29 年度	9 人 (タイ・1 年生・4 人、スウェーデン・2 年生・5 人)	
平成 30 年度	3 人 (スウェーデン・2 年生・3 人)	

○SGHで実施したプレゼンテーションなど、生徒の活躍について高い評価を得ています。

●SGHの指定が終わった後、異文化理解やコミュニケーション能力の育成のための手段や方法を、どのようにして継承していくのが課題です。また、グローバル化に関する学びの取組について、2年生以降になるとGA選択者などの一部の生徒しか取り組めないことから、学校全体で実施する取組を充実させる必要があります。

### (イ) 今後の取組の方向性

平成 30 年度入学生から学校設定科目「グローバルコミュニケーション」を導入するなど、今後もSGHで培った異文化理解やコミュニケーション能力の育成のための手段や方法を継承するための検討を行っていきます。

また、海外高校との姉妹校提携も視野に入れた留学生との交流を計画するなど、学校全体の意識高揚を図る取組を実施します。

## 2 職業系専門学科・コース

### (1) 理数工学科

#### 工業科の具体計画の方向(プランより抜粋)

- 進学を視野に入れた教育や、より一層の資格取得の充実を推進するとともに、工業教育の手法について、研究・開発を一層推進し、県全体の工業教育の底上げを図るため、工業教育の拠点校を設置します。

#### ア 第1次実施プログラムにおける理数工学科の設置

##### (ア) 対象校

- ・千葉工業高校

##### (イ) 再編の内容

- ・大学においてより高度な知識・技術を身に付け、ものづくりに携わる優れた人材を育成するため、進学を視野に入れた理数工学科を設置します。
- ・理数工学科は、進学に特化した新たな学科として、一般入試のほか多くの大学で実施されている推薦入試やAO入試※1に対応します。

#### イ 実施状況

- ・進路指導では、課題研究等を通して工学に関する研究目標を意識させ、タブレット端末などのICT※2を活用した教育の充実や、一般入試、推薦入試、AO入試を目指した進学指導により、個々の目標達成を目指しています。
- ・学校設定科目「産業工学研究」では、主として工業系高校人材育成コンソーシアム千葉※3の会員である大学・専門学校・企業から講師を招き、工業に関する専門的な講義から進学への意欲向上を図っています。

---

※1 AO入試【Admissions Office の略】:書類や面接等で選考する入試形態。「令和3年度大学入学者選抜実施要項」では、各々の入学者選抜としての特性をより明確にする観点から、一般入試を「一般選抜」、推薦入試を「学校推薦型選抜」、AO入試は「総合型選抜」に名称変更する。

※2 ICT【Information and Communication Technology の略、情報通信技術】:パーソナルコンピューターやタブレット端末、スマートフォンなどを使った情報処理や通信技術の総称

※3 工業系高校人材育成コンソーシアム千葉【consortium、コンソーシアムは共同事業体の意】:平成26年8月に設立された、企業が有する産業技術や、大学・研究所の知識・設備などを活かしながら、産・学・官が相互に連携して、千葉県の高등학교における工業教育の質を高め、ものづくりの実践力を育成する団体(平成31年4月1日現在60団体)



「産業工学研究」での  
大学体験（左）  
タブレット端末を活用  
した授業（右）

## ウ まとめ

### (ア) 成果と課題（○成果、●課題）

- 1、2学年で電気や機械、工業化学などの工業分野を広く学ぶことによって、工業に関する研究目標を持ち、3学年の課題研究では、生徒個々が目指す進学先に向けた積極的な取組が見られました。その結果、卒業生36人のうち72.7%（26人）が大学・短大へ進学しました。

[平成30年度 大学進学率（大学進学者数／卒業生数）]

理数工学科 72.2%、他の4学科※ 9.4%

※他の4学科は、電子機械科、情報技術科、電気科、工業化学科

- 学校設定科目「産業工学研究」では、土曜授業を通して、大学や専門学校の講師による専門的な講義を受講したことで、生徒一人一人が、進学に向けて必要な研究課題を発見することができました。

- 進学を重視し、国公立大学受験や一般入試に向けたカリキュラムを編成し、一般入試の他、推薦入試やAO入試に対応しました。

[入学試験種別進学者数] ※数字は受験者数（合格者数）

平成30年度 一般入試 2人（2人）

推薦（指定校・公募）入試 18人（18人）

AO入試 7人（6人）

- タブレット端末などのICTを活用した教育に十分対応できるよう職員の更なる指導力向上が必要です。また、学校設定科目「産業工学研究」では、通常では経験できない貴重な講義内容であることを十分に理解させ、周知することが必要です。

### (イ) 今後の取組の方向性

補習等を含めた進学指導の充実や、生徒の進路実現に向けたカリキュラムの編成に向けて更なる改善に取り組めます。また、ICTを活用した教育の充実に向けて、全教科の職員に研修する機会をこれまで以上に設けるなど、職員の更なる指導力の向上を組織的に図っていきます。

### 3 総合学科

#### (1) 総合学科※1

##### 総合学科の具体計画の方向（プランより抜粋）

- 多様な学習ニーズに対応できる総合学科のメリットを普通科の改編に活用し、普通科の転換により、総合学科を3～5校程度設置します。
- 新たな総合学科については、進学を重視する系列や幅広い将来設計にも対応できる系列など、多様なタイプの系列の設置について検討します。

#### ア 第2次実施プログラムにおける総合学科の設置

##### (ア) 対象校

- ・小金高校 普通科

##### (イ) 再編の内容

- ・生徒の多様な進学希望に対応するとともに、大学卒業後の就業までを見通した職業意識の高い人材を育成するため、小金高校の普通科を改編し、進学を重視した総合学科を設置します。

#### イ 実施状況

- ・2年次から分かれる4つの系列や興味・関心、進路希望に応じた科目の適切な選択に資するため、1年次で「産業社会と人間」（2単位）を履修し、外部講師の講演などを通して、目指すべき進路を明確なものにしています。
- ・生徒の進路ニーズに対応した人文国際系列、数理科学系列、医療看護系列、芸術文化系列の4つの系列を設置し、少人数指導などにより、質の高い授業を実践するとともに、インターンシップや上級学校訪問などにより、希望進路を実現するための取組を積極的に行っています。
- ・「課題研究」（2年次1単位、3年次1単位）、「総合的な学習の時間」（2年次1単位、3年次1単位）では、積極的にSDGs※2を取り入れ、問題解決型学習を実践することで、生徒は課題発見・課題解決能力を身に付けています。

※1 総合学科:平成6年度から制度化された普通科及び専門学科と並ぶ第3の学科で、普通科目と専門科目をともに幅広く開設し、生徒が自らの興味・関心や進路希望等に応じて幅広い分野の中から科目を選択して学習できるなど、柔軟な教育課程が編成できる単位制の学科

※2 SDGs【エスディーゼーズ、Sustainable Development Goals の略、持続可能な開発目標】:持続可能な開発のための17のグローバル目標と169のターゲットからなる国連の開発目標

[設置科目数の比較]

平成 26 年度（設置前） 57 科目

平成 30 年度（設置後） 87 科目 ⇒ 設置後、30 科目増



「主体的・対話的で深い学び」  
 (アクティブ・ラーニング) での授業 (上)  
 「課題研究」発表会 (下)



[在籍生徒の学区別出身市町村の比較] (平成 28 年度より全県一区)

	平成 27 年度 (設置前)	平成 30 年度 (設置後)
第 2 学区	488 名	487 名
第 3 学区	442 名	445 名
第 4 学区	39 名	30 名
上記以外	11 名	11 名
合 計	980 名	973 名

ウ まとめ

(ア) 成果と課題 (○成果、●課題)

- 質の高い少人数制授業や高大連携、キャリア教育を推進することで、生徒の多様な進路ニーズに的確に応えています。
- 将来の進路を見据えた様々な学びの提供により、目指すべき進路が明確になり、一般受験で難関校を目指すようになりました。
- 進学を重視した総合学科として、「課題研究」、「産業社会と人間」のキャリアラムを確立し、進路指導に適切に結び付ける必要があります。

(イ) 今後の取組の方向性

今後、必要とされる課題発見・課題解決能力を身に付けるため、「課題研究」の授業展開を更に工夫改善します。

## 4 社会のニーズに対応した教育

### (1) 単位制高校※1

#### 単位制高校の具体計画の方向（プランより抜粋）

- 進路希望等に応じて履修する科目を選択できる単位制高校のメリットを生かし、一人一人の進学希望に応じた学習指導の充実を図るため、進学指導重点校など2校程度に導入します。
- 生徒の多様なニーズへの弾力的な対応が可能なことから、多様な選択科目の拡大、ガイダンス機能の充実、2学期制の趣旨を踏まえた単位の半期認定の実施、キャリア教育※2・職業教育の充実、高大連携、企業との連携等を一層推進し、単位制高校の特性を活かした教育内容の充実を図ります。

#### ア 第1次実施プログラムにおける単位制の導入

##### (ア) 対象校

- ・成東高校 普通科・理数科

##### (イ) 再編の内容

- ・一人一人の生徒の興味・関心などに対応した学習を進め、個性の伸長を図り、幅広い進路選択を可能とするため、成東高校に単位制を導入します。

#### イ 実施状況

- ・基礎学力の定着に基づいた確かな学力を保証し、生徒が主体的・探究的に学ぶ態度を育成する授業を展開しています。
- ・自分の学習計画に基づいて、自分の興味・関心等に応じた幅広い科目選択ができています。

#### [設置科目数の変化]

平成 26 年度（設置前） 48 科目

平成 30 年度（設置後） 73 科目 ⇒ 設置後、25 科目増

※1 単位制: 学年の区分がなく、入学から卒業までに決められた単位を修得すれば卒業が認められる制度で、全国では定時制課程と通信制課程に昭和 63 年度から、全日制課程に平成 5 年度から導入された。

※2 キャリア教育: 一人一人の社会的・職業的自立に向けて、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育

(中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(平成 23 年1月 31 日))



- ・キャリア教育推進の一環として学校設定教科「つくもタイム」を開講し、「つくもタイム」の選択科目である「教育基礎」「ヘルスケア基礎」「多文化共生」の科目において、近隣小学校や大学と連携しています。



学校設定教科「つくもタイム」での取組  
「教育基礎」(左)、「ヘルスケア基礎」(右)

#### ウ まとめ

##### (ア) 成果と課題 (○成果、●課題)

- 多様な選択科目に対する生徒の満足度が高く、生徒の教育的ニーズに応えています。特に新たな選択科目である「つくもタイム」では、約7割と生徒の高い満足度を得ています。
- 「つくもタイム」においてキャリア教育を充実させるなど、生徒一人一人の進路希望に応じた科目選択が可能となっています。
- 3年次での選択科目は多様であるが、1・2年次では選択科目が少ないので、教育課程を工夫・改善する必要があります。

##### (イ) 今後の取組の方向性

生徒が希望する進路に応じた体系的な科目設定のために、「つくもタイム」を2年次から始めたり、1・2年次での選択科目を増やしたりするなど、教育課程の見直しを図るようになります。

## (2) 中高一貫教育校※1

### 中高一貫教育校の具体計画の方向（プランより抜粋）

#### 《併設型中高一貫教育校・中等教育学校》

- 生徒・保護者及び社会のニーズ、配置バランス、地域の実情などを踏まえ、2校程度設置します。

### ア 第1次実施プログラムにおける併設型中高一貫教育校の設置

#### (ア) 対象校

- ・東葛飾高校

#### (イ) 再編の内容

- ・高校卒業までの6年間をとおして、きめ細かな指導を行うことで、生徒の新たな能力の発見やその伸長を目指し、東葛飾高校に県立中学校を併設します。

#### イ 実施状況

- ・全教科の授業で、学び合いや知的好奇心を重視した「主体的・対話的で深い学び」を実践しています。
- ・学校設定科目「つながる力」、総合的な学習の時間「つなげる力」では、柏市の行政機関や民間機関等での調べ学習や職場体験を実施しています。
- ・中学校籍と高校籍でそれぞれ8名ずつの教諭が、中学校と高校の両方の授業を担当しています。
- ・学力向上や、中学生と高校生の交流を目的として、夏季休業中に高校生の希望者が中学生に数学を指導しています。また、国語・数学・社会では中学生と高校生が共に参加する授業を開設し、中学生が発表したことに対して高校生が意見を述べる取組を行っています。



夏季研修会（左）  
アメリカ研修報告会（右）

※1 中高一貫教育校:実施形態から、「中等教育学校」「併設型」「連携型」の三つがある。「中等教育学校」は、一つの学校として、一体的に中高一貫教育を行うもので、「併設型」は、「中等教育学校」より緩やかな形態で、高等学校入学者選抜を行わず、同一の設置者による中学校と高等学校を接続する。「連携型」は、設置者が異なる場合であっても実施できるように「併設型」よりも更に緩やかな形態で実施するもの。



## ウ まとめ

### (ア) 成果と課題 (○成果、●課題)

- 中高一貫教育校の取組について、生徒、保護者の満足度が高く、教育的ニーズに応えています。
- 中学校3年間での生徒の変化として、日々の授業での「主体的・対話的で深い学び」や調べ学習により、コミュニケーション能力が伸長し、他者への思いやりの気持ちや自らを律する力が身に付きました。
- 中学校と高校の「リベラルアーツ講座※2」を受講したことで、教養を高めることができました。
- 中学校と高校との職員や施設の、円滑な連携に向けた取組の体系化が必要です。また、行事や部活動の更なる充実が検討課題です。

### (イ) 今後の取組の方向性

中学校と高校の連携に関する恒常的な委員会を立ち上げ、連携の充実に必要な取組等を検討していきます。また、行事や部活動の充実を求めるなどのニーズも多様化してきている中で、授業の質をさらに向上させるとともに、「主体的・対話的で深い学び」を充実させていくことで、生徒の満足度を維持し、自ら学ぶ姿勢を中学校3年間で身に付けさせます。

設置初年度の生徒が、令和元年度で高校1年生となりました。高校卒業までの6年間をとおした評価が必要であることから追調査を行っていきます。

---

※2 リベラルアーツ講座:東葛飾高校において、大学教授や各分野のスペシャリストの方などを講師として土曜日を中心に開講している、「一般教養講座」と「医療講座」合わせて50を超える体験型講座。講座内容によっては、東葛飾中学校の生徒も参加し、高校生と一緒に学んでいる。(東葛飾高校「2018 学校案内」より)

## 5 今後の取組の方向性

### ◇評価の改善に向けた取組

生徒や保護者を対象としたアンケート結果（18 ページ以降参照）では、「課題研究で、いろいろな知識が身についた」、「将来の選択肢が広がった」等、学びや学科等の選択に対する肯定的な回答が理数工学科を除き、概ね8割となり、生徒や保護者の教育的ニーズに応えていると考えられます。

一方、千葉工業高校の理数工学科では、「進学を重視したカリキュラム」に対する満足度で、生徒の約9割、保護者の約6割が否定的な回答となりました。同学科では、英語や数学、理科の単位数を通常の工業科の約2倍とするなど、当初から、国公立大学の受験や一般入試に向けたカリキュラムを編成しましたが、学習内容に対する認識に、学校と生徒の間で食い違いがあったと考えられます。

しかし、進学実績では、大学・短大への進学率が約7割を超え、工業科としては、高い数値となりました。また、これまでに、教育課程の見直しを実施するなど、既に課題の改善に取り組んだ結果、志願倍率も徐々に上がってきています。

今後は、補習を含めた進学指導の充実や、生徒の進路実現に向けたカリキュラムの編成、タブレット端末などのICTを活用した教育の充実に向けて更なる改善に取り組めます。

### ◇学びの継承、発展に向けた取組

再編実施校への聴き取り調査（23 ページ以降参照）では、学びや学科等に設置された科目や教育課程について、更なる取組の充実が必要との意見が多数ありました。既に再編実施校では、「新たな科目の設定」、「職員の更なる指導力の向上」、「授業展開の工夫改善」、「中高の連携充実」等、具体的な対応を検討しています。

今後も県教育委員会として、再編実施校の取組について、「魅力発見！県立学校」等のホームページなどで積極的な広報に努めるとともに、学びの継承、発展に向けて、継続的な支援を行っていきます。

## 6 外部・関係団体の意見から

平成31年4月、文部科学大臣が中央教育審議会に、高校普通科の専門性を高める改革の推進等に関する諮問を行った中で、今後の普通科の在り方について、進学、就職といった進路に沿った学びができる体制づくりをすべきとの方向性が示されました。今回、再編全体に対して意見を伺った外部・関係団体からも、今後の普通科の学びに関する意見を多くいただいたところです。

また、「郡部において、地元の人材が定着するコースをつくってほしい。」「学びの先に何がつながるのか、光が見えることが大事。」等、地域人材の育成やキャリア教育の推進に関する意見も多くいただきました。

再編実施校ごとの個別の意見では、グローバル化に関する学びについて、生徒のプレゼンテーション能力の向上など、学校の取組を高く評価する一方で、SGHの指定が終わった後の取組についての課題も指摘されています。

理数工学科では、学科設置に対する中学生や保護者への広報の不足等が指摘されていますが、生徒の学びへの取組を高く評価する意見も多くいただきました。

総合学科では、「生徒が強い目的意識を持っている。」「中学生の選択肢が広がった。」等の肯定的な意見があった一方で、「今後の普通科の多様化に対して、総合学科の立ち位置をどうするか。」「受験との有用性に少し課題がある。」等の意見もいただきました。

単位制高校では、学校設定教科「つくもタイム」や少人数授業の取組を高く評価する一方で、今後の単位制としての更なる工夫を期待する意見もいただきました。

中高一貫教育校では、連携先で生徒の学びに対する積極的な姿勢を高く評価しています。また、「中学校3年間での取組だけではなく、高校までの6年間での取組を総合的に評価すべき」との指摘もありました。

## 7 評価のまとめ

平成 28 年度に実施した再編については評価対象ごとに見開きの形で、本冊子 5 ページから 14 ページに取りまとめましたが、全体として概ね評価できる一方で、今後更なる取組の改善が必要とする内容となっています。

また、再編実施校への聴き取り調査（23～28 ページ参照）では、「将来の進路を見据えた様々な学びの提供により、目指すべき進路が明確になった。」、「生徒のコミュニケーション能力が伸長し、他人への思いやりの気持ちや自ら律する力が身に付いた。」等、具体的な成果の実例が挙げられており、生徒が主体的に進路を選択し、自己実現を図るための素地となるソーシャルスキルや倫理観を身に付けるなど、当プランの重点項目であるキャリア教育の充実が図られていると考えられます。

学びや学科等の設置前後の志願状況（34、35 ページ参照）に関しては、理数工学科を除き、概ね安定した倍率を維持しています。中でも中高一貫教育校の東葛飾中学校では 10 倍を超える倍率となっています。一方、理数工学科については志願状況が徐々に改善されてきていますので、今後とも推移を確認していきます。

進路状況（36～38 ページ参照）について、特に理数工学科では大学・短大への進学率が約 7 割を超え、「進学に特化した」という当初の設置目的に適った成果となりました。また、総合学科においても各系列での学びを活かした進路実績を上げています。他の学び等についても、生徒の多様な進路ニーズに応えた成果を得ています。

今後も、アンケート調査や聴き取り調査、外部・関係団体からいただいた意見や提案を参考にしながら、魅力ある県立学校づくりを推進していきます。

（再掲）理数工学科

[平成 30 年度 大学進学率（大学進学者数／卒業者数）]

理数工学科 72.2%、他の 4 学科※ 9.4%

※他の 4 学科は、電子機械科、情報技術科、電気科、工業化学科

### Ⅲ 資料

#### 1 生徒及び保護者アンケート調査

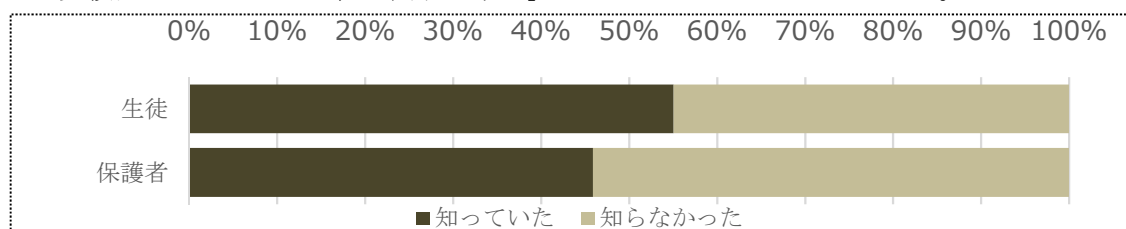
##### (1) グローバル化に関する学び（松尾高校）

###### ア アンケートの実施

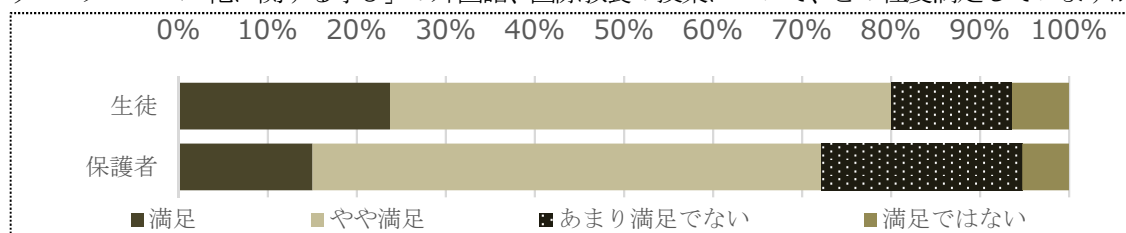
(ア) 実施時期 平成 30 年 12 月

(イ) 回答数 生徒 158、保護者 146

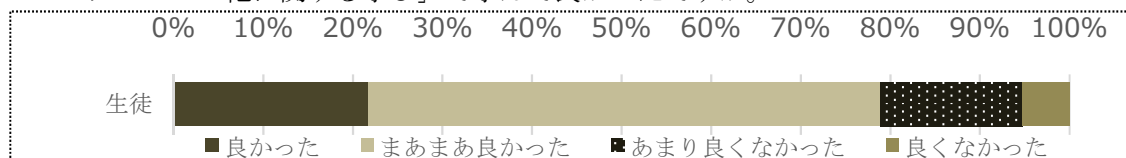
###### イ 受検前に「グローバル化に関する学び」があることを知っていましたか。



###### ウ 「グローバル化に関する学び」の外国語、国際教養の授業について、どの程度満足していますか。

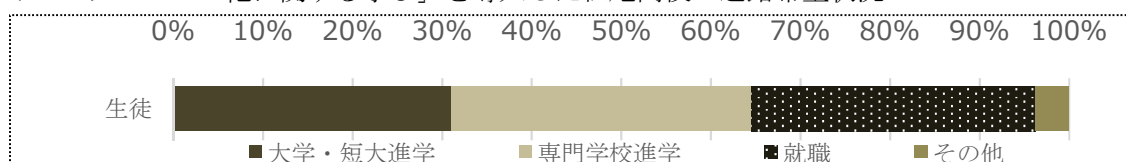


###### エ 「グローバル化に関する学び」で学んで良かったですか。



- ・講演会や進路指導がためになった。
- ・色々なフィールドワークから学ぶものがあつた。
- ・課題研究をすることで、いろいろ知識が身につけてとてもよかった。
- ・講演会は全校で行っていたけれど、留学生との交流や海外フィールドワークは、グローバルを選択している人しかやっていた。
- ・グローバル学習がどれかハッキリわからないことがあつた。

###### オ 「グローバル化に関する学び」を導入した松尾高校の進路希望状況



[大学進学] 福祉関係、看護関係、保育関係、建築関係など

[専門学校] 看護関係、理学療法士関係、公務員関係など

[就 職] 介護、事務、公務員など

[そ の 他] 未定、無回答など

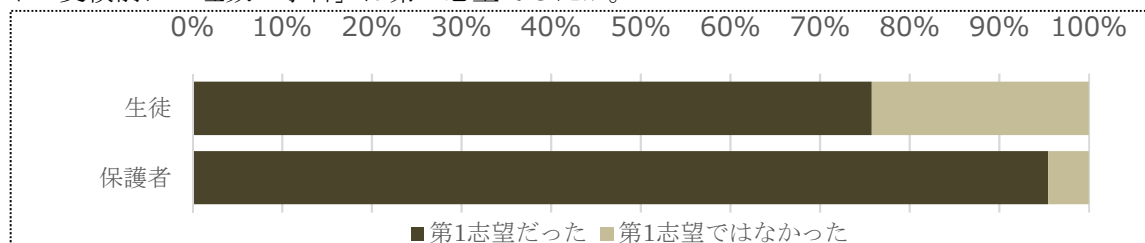
## (2) 理数工学科 (千葉工業高校)

### ア アンケートの実施

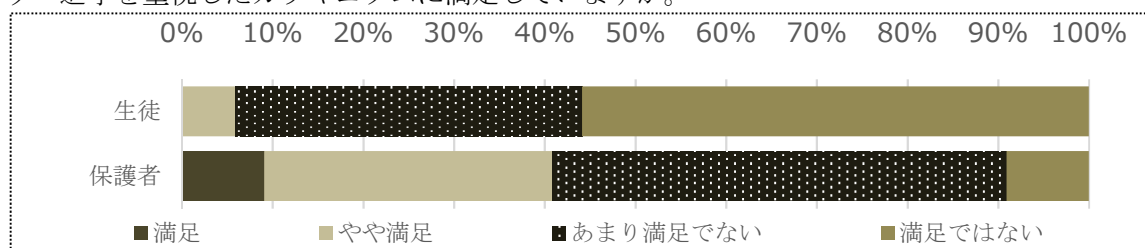
(ア) 実施時期 平成 30 年 12 月

(イ) 回 答 数 生徒 36、保護者 22

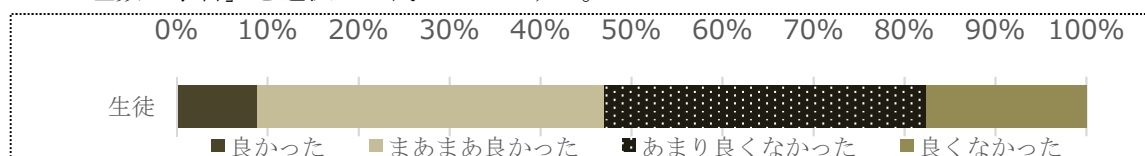
### イ 受検前に「理数工学科」は第1志望でしたか。



### ウ 進学を重視したカリキュラムに満足していますか。

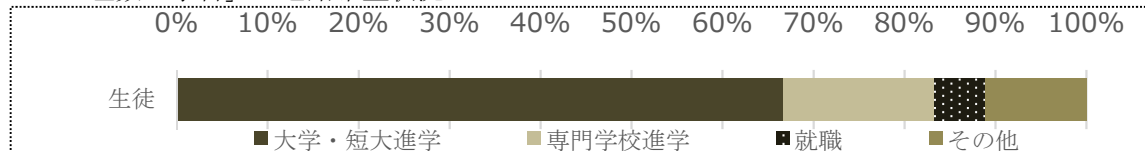


### エ 「理数工学科」を選択して良かったですか。



- ・他の学科と違い、広く浅く工業分野を学べるだけでなく、他学科の実習ができたので人生にプラスになった。
- ・中学からの志望大学に進学できるように先生がサポートしてくれた。
- ・iPadをあまり活用していない。
- ・進学を重視したカリキュラムではない。

### オ 「理数工学科」の進路希望状況



[大学進学] 工学系、理工系、教育系など

[専門学校] 理工系、リハビリ系など

[就 職] プラントオペレーターなど

[そ の 他] 未定、無回答

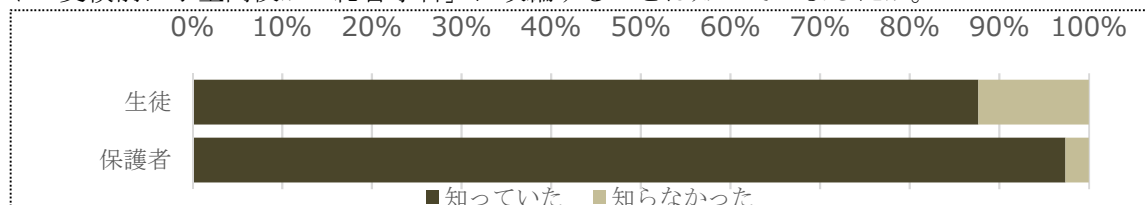
### (3) 総合学科（小金高校）

#### ア アンケートの実施

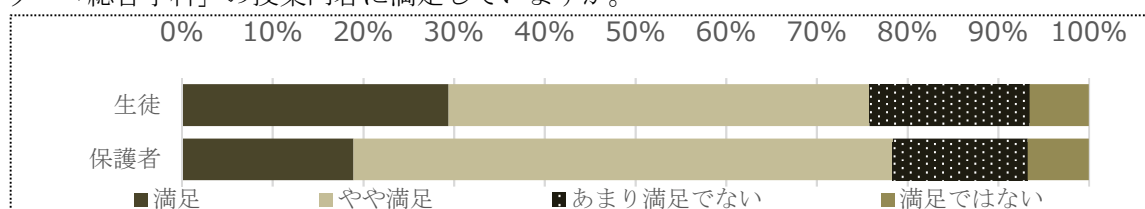
(ア) 実施時期 平成 30 年 12 月

(イ) 回答数 生徒 155、保護者 76

#### イ 受検前に小金高校が「総合学科」に改編することは知っていましたか。



#### ウ 「総合学科」の授業内容に満足していますか。

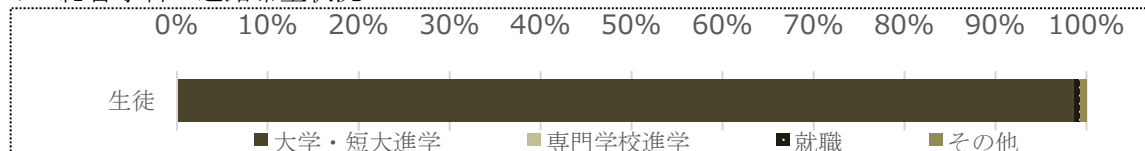


#### エ 小金高校の「総合学科」で学んで良かったですか。



- ・専門学校ではないのにここまで専門的なことができたことがとても嬉しい。将来の選択肢が広がるのもいい。先生方も相談に乗ってくれるのも助かった。
- ・総合学科であることで、より個性的な人が多く集まり、多くの刺激を受けることができた。
- ・専門授業がとても役立っている。大学等の受験前に高校で受けるだけの価値が充分ある。
- ・課題研究がしっかりと確立する前に行われたためか、中途半端になっていたと思う。他の学校より授業数は多いはずだが、うまく生かされていなかったように思える。

#### オ 総合学科の進路希望状況



#### 系列分野別進路

[医療看護] 情報関係、医療関係、農業関係、経済経営関係

[芸術文化] 音楽関係、デザイン関係

[人文国際] 経済関係、観光関係、栄養関係、文学関係、英語関係、国際関係、芸術関係、メディア関係、法学関係、教育関係

[数理科学] IT関係、情報メディア関係、工学関係、建築関係

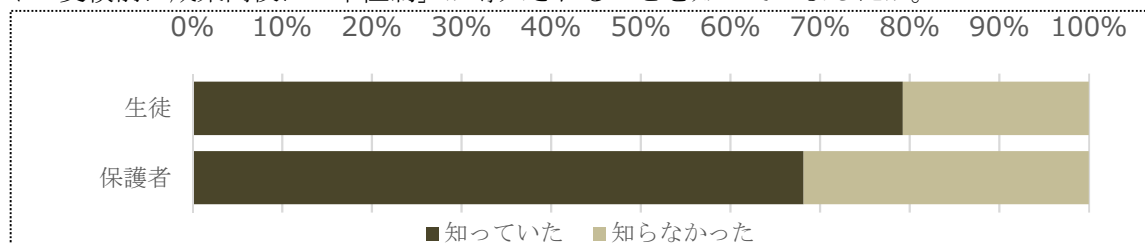
#### (4) 単位制高校（成東高校）

##### ア アンケートの実施

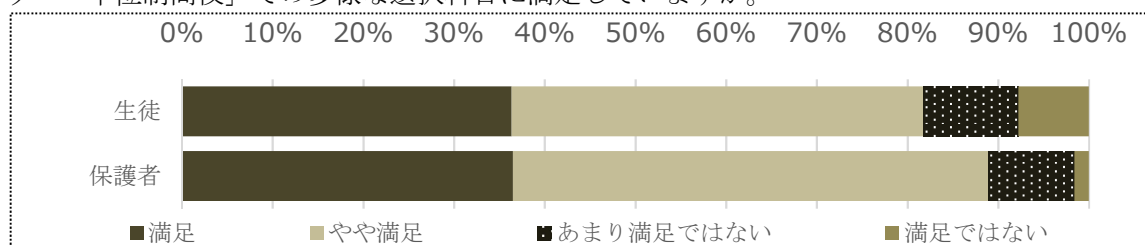
(ア) 実施時期 平成 30 年 12 月

(イ) 回 答 数 生徒 77、保護者 66

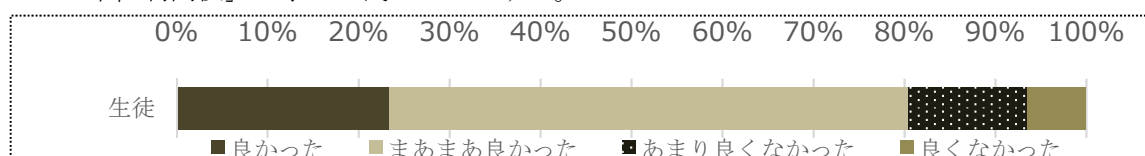
##### イ 受検前に成東高校に「単位制」が導入されることを知っていましたか。



##### ウ 「単位制高校」での多様な選択科目に満足していますか。

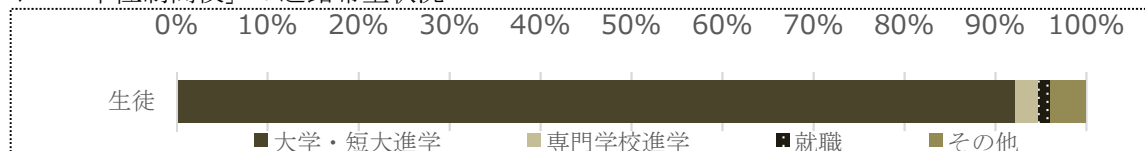


##### エ 「単位制高校」で学んで良かったですか。



- ・多様な選択科目があったから。
- ・自分の興味ある科目を重視できるから。
- ・自分で科目を選択したり、校外に行ったり、外部から先生を招いて講義を聴ける時間があつた。
- ・選択科目があまり自由ではないから。
- ・学年制と変わったことはなかったから。

##### オ 「単位制高校」の進路希望状況



[大学進学] 法学関係、工学関係、経済関係、文学関係、看護関係など

[専門学校] 声優関係、薬剤関係

[就 職] 自衛官

[そ の 他] 未定、無回答



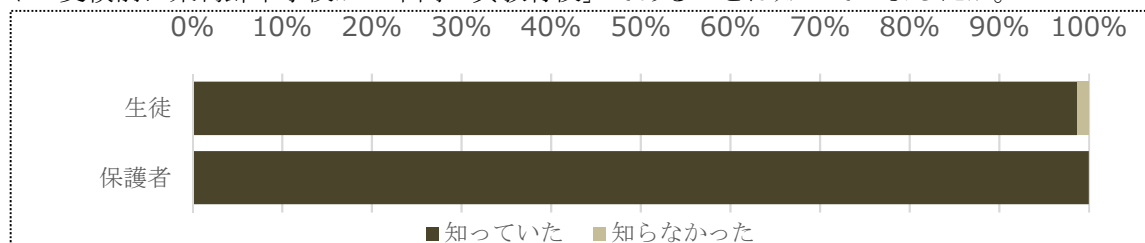
(5) 中高一貫教育校（東葛飾中学校）

ア アンケートの実施

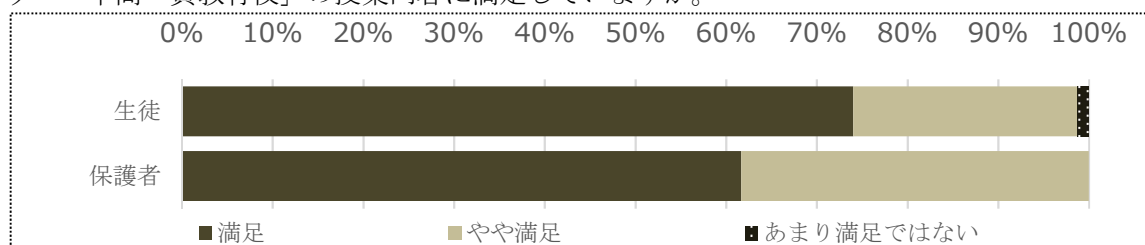
(ア) 実施時期 平成 30 年 12 月

(イ) 回答数 生徒 77、保護者 73

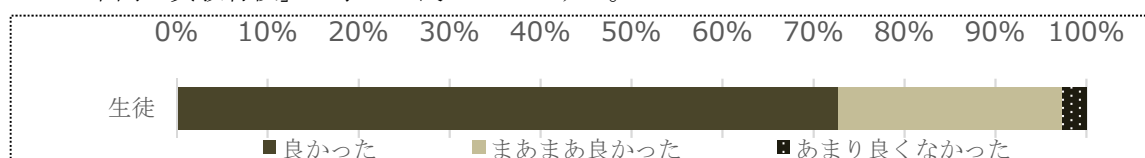
イ 受検前に東葛飾中学校が「中高一貫教育校」であることは知っていましたか。



ウ 「中高一貫教育校」の授業内容に満足していますか。

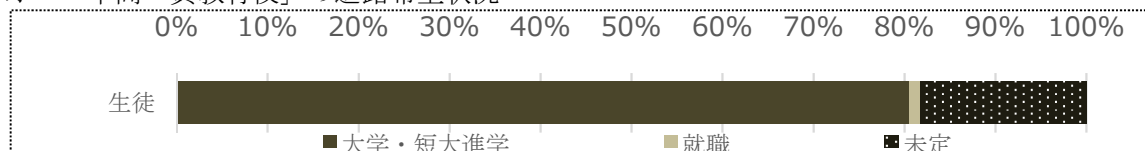


エ 「中高一貫教育校」で学んで良かったですか。



- 普通の中学では身につかない、プレゼン力や考える力、英語力がついたから。
- 英語やリベラルアーツなど他の学校にはない発展的な内容を深く学ぶことができ、楽しかったから。
- 高校生とのコミュニケーションがたくさんとれる。一緒に同じ活動をすることもできた。
- 普通の学校では、黒板に書かれていくことを頑張って理解するような授業だと思うが、東葛飾中はアクティブラーニングが主で、自分の意見を積極的に話すことができ楽しい。
- 事前に考えていた程、高校との連携が少ないから。期待していたほどではなかった。

オ 「中高一貫教育校」の進路希望状況



[進学] 教育関係、法律関係、経営関係、文学関係、社会関係、語学関係、国際関係、理工関係、  
数学関係、情報関係、医学関係、生物関係、芸術関係、工業関係など

[就職] 警察官

## 2 再編実施校聴き取り調査及び中学校アンケート調査

### (1) グローバル化に関する学び（松尾高校）

#### ア 当該校への聴き取り（抜粋）

(ア) 「グローバル化に関する学び」の目標や特色

- ・地元から日本、北欧、東南アジアと比較しながら、グローバルエイジング（地球規模の高齢化）を考え、諸課題の解決に向けた活躍できるグローバル人材を育成する。

(イ) 学習への取組

- ・入学後英語検定の資格取得者が増加しているほか、授業への取組は積極的で、どの教科でも主体的に学ぼうとする姿が見られる。

(ウ) 「グローバル化に関する学び」導入の成果

- ・異文化理解力やコミュニケーション能力が著しく向上したことで、国際交流を行う素地ができた。

(エ) 現在の課題

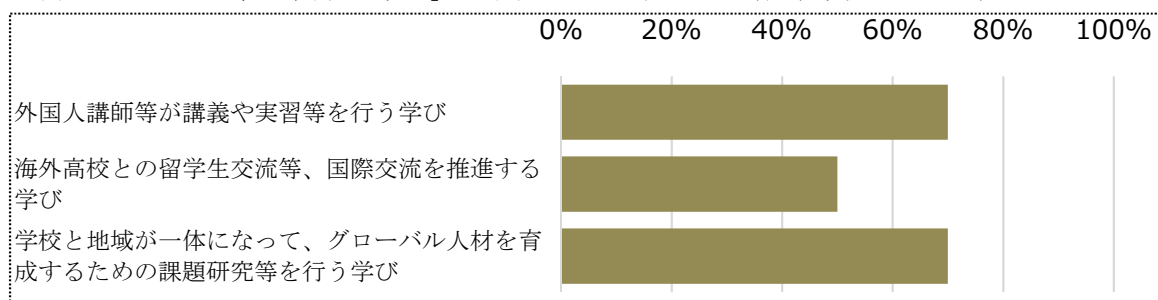
- ・国際感覚を積極的に求める生徒、保護者が多いとは言えず、学校全体での意識高揚が課題である。

(オ) 近隣中学校の状況

- ・生徒の英語力やコミュニケーション能力の向上には一定の評価はいただいているが、活動内容が十分に理解されている状況ではない。

#### イ 近隣中学校（20校）へのアンケート

(ア) 「グローバル化に関する学び」の取組として良いもの（各中学校2つまで）



(イ) 中学校からの意見（抜粋）

- ・地域との連携を重視しながら、国際社会での活躍につながる意識・知識・技能を育成する取組を期待します。
- ・学区1校程度を指定校として配置し、地域もしくは近隣小中学校へのグローバル発信基地になってほしい。
- ・学校だけでは無理だと思うので、企業、大学、小中学校との連携と協力が不可欠だと思います。この点を強化し、高校がやりやすい状況を築くことが肝要だと考えます。
- ・実践内容はわかるのですが、「グローバル化に関する学び」の魅力や身に付く資質・能力がはっきりイメージできない現状があります。

◇スーパーグローバルハイスクール（SGH）中間評価の結果について（文部科学省）

※平成 27 年度指定、平成 29 年度中間評価の結果を公表

（評価）

「このままでは研究開発のねらいを達成するのは難しいと思われるので、助言等に留意し、当初計画の変更等の対応が必要と判断される。」

（講評）

- 計画は実施されているが、各活動が「目標」を達成するプログラムとして統合されたものになっていない点は課題である。
- 自ら課題を設定し、テーマを沿って習得した知識・技能を活用するといった探究のプロセスを意識した指導を充実させる必要がある。
- SGH事業の目的と照らし、グローバル市民育成という観点から地域課題を世界的視野から解決できるような人材育成という狙いを明確化するなどの改善が望まれる。

## (2) 理数工学科 (千葉工業)

### ア 当該校への聴き取り (抜粋)

#### (ア) 「理数工学科」の目標や特色

- ・工業の基礎に関する知識・技術を学びつつ、大学入試に対応できる進学を重視した学びを実施する学科である。一般入試の他、推薦入試やAO入試にも対応できる指導を丁寧に行う。

#### (イ) 学習への取組

- ・研究課題を持つ生徒は放課後等も利用して研究に取り組み、課題研究発表会や外部の発表会等にも積極的に参加していた。
- ・進学を意識した生徒は、英語検定上位級等も受験していた。

#### (ウ) 「理数工学科」設置の成果

- ・1、2学年で電気や機械などの工業分野を広く学ぶことによって、工業に関する研究目標を持ち、3学年では、生徒個々が目指す進学先に向けた積極的な取組が見られた。
- ・学校設定科目「産業工学研究」では、大学や専門学校の講師による専門的な講義を受講したことで、生徒一人一人が、進学に向けて必要な研究課題を発見することができた。

#### (エ) 現在の課題

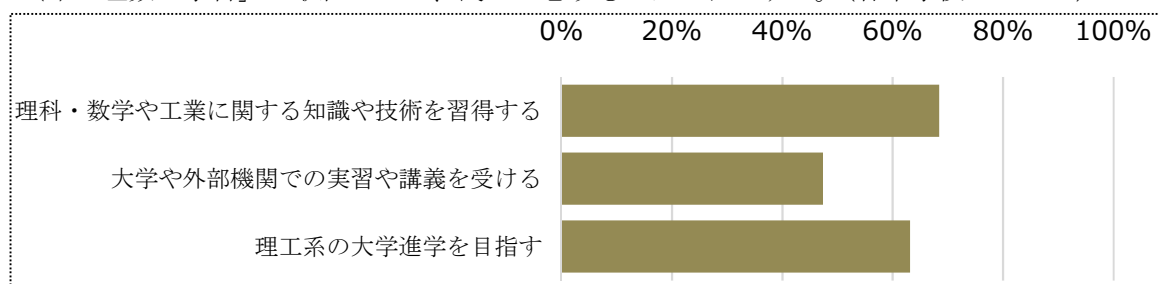
- ・補習等を含めた進学指導の充実や、ICTを活用した教育などの様々な事例に対応できるよう職員の更なる指導力向上が必要です。
- ・学校設定科目「産業工学研究」では、通常では経験できない貴重な講義内容であることを理解させることが必要です。

#### (オ) 近隣中学校の状況

- ・中学生は工業高校を希望した後に小学科を検討するため、大学進学希望者は少ない傾向にある。

### イ 近隣中学校 (19校) へのアンケート

#### (ア) 「理数工学科」の取組として、良いと思うものはどれですか。(各中学校2つまで)



#### (イ) 中学校からの意見 (抜粋)

- ・大学等との連携は生徒にとって魅力的である。
- ・大学進学の実績を上げることが生徒にも魅力となり受験者も増えると思う。
- ・理数が好きな生徒は理数科に進み、理数が好きでかつ工業に興味を持ち、さらに大学進学を見据えた選択ができる生徒はかなり限定される。
- ・設置の目的や実際の学習内容等を中学校に知らせる工夫をするとよい。

### (3) 総合学科（小金高校）

#### ア 当該校への聴き取り（抜粋）

##### (ア) 「総合学科」の目標や特色

- ・地域の進学校としての期待に応え、生徒の学力の向上と希望進路の実現を図る。
- ・自由闊達な校風を維持し、生徒の自主的能力を育成・支援する。
- ・継承すべき伝統と改善すべき課題を適切に整理し、さらに活力ある学校づくりを推進する。

##### (イ) 学習への取組

- ・多くの生徒が意欲的に学習に取り組んでいる。授業だけでなく、放課後や長期休業中の補習などにも熱心に参加している。

##### (ウ) 「総合学科」設置の成果

- ・進学を重視するタイプであることを前面に打ち出し、質の高い授業や高大連携、キャリア教育などを推進する。

##### (エ) 現在の課題

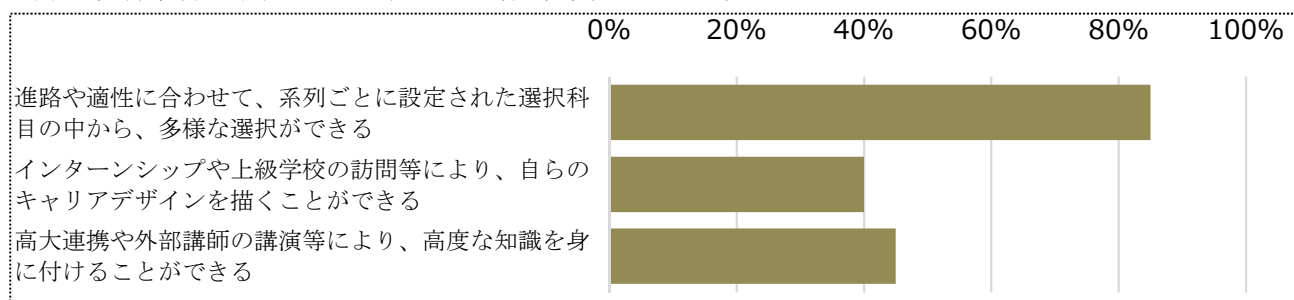
- ・進学を重視したタイプの総合学科として、「課題研究」「産業社会と人間」をいかに進路指導に結び付けていくか。

##### (オ) 近隣中学校の状況

- ・地域の進学校としての知名度は高いといえるが、総合学科の理解も高いものがある。

#### イ 近隣中学校（20校）へのアンケート

##### (ア) 総合学科の取組として良いもの（各中学校2つまで）



##### (イ) 中学校からの意見（抜粋）

- ・総合学科は、近年志願倍率が高い傾向があります。望む声が多い反面、他の普通科の志願状況との格差も広がっているように思われます。増やすことに併せて、コース等を増やす対応が必要と考えます。
- ・柔軟な科目履修が可能な点が、総合学科の最大の魅力です。それは、生徒側に明確な進路意識があつてこそ機能します。キャリア教育の充実が職業選択の動機付けとなり、学力向上につながると信じます。地域、小中高、高大の連携を更に推進し、自分の夢を実現できる学校として、地域の子供達の憧れの高校として更に発展してほしい。

#### (4) 単位制高校（成東高校）

##### ア 当該校への聴き取り（抜粋）

###### (ア) 「単位制高校」の目標や特色

- ・自分の学習計画に基づいて、自分の興味・関心等に応じた幅広い科目選択ができる。
- ・学年の区分がなく、自分のペースで学習に取り組むことができる。

###### (イ) 学習への取組

- ・自己の進路に応じた科目を選択しているため、授業への取組状況は良好である。
- ・45分授業ということもあり、集中して授業を受けている。

###### (ウ) 「単位制」導入の成果

- ・多くの選択科目を設定した教育課程を編成することができた。
- ・生徒一人一人が進路希望に応じた科目選択ができるようになった。

###### (エ) 現在の課題

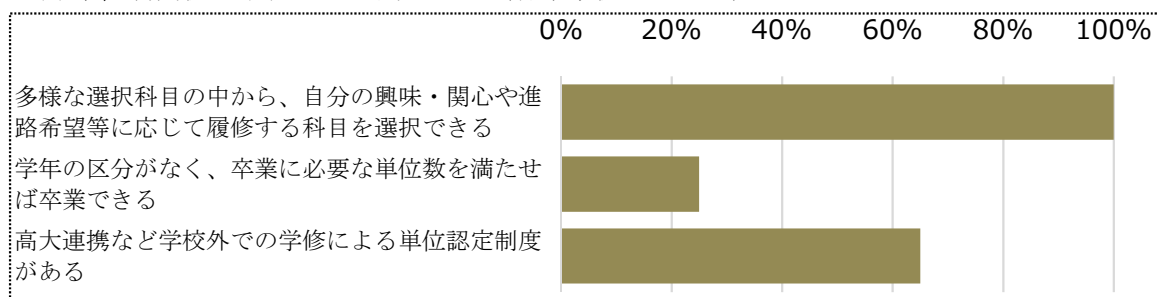
- ・複数年次が一緒の授業展開や半期認定の科目の設定を実現したいと考えているが、学年制の影響が強く難しい。
- ・生徒の科目選択の自由度が高いため、授業時間割が組みにくい。
- ・学校設定科目のような教科でない科目を誰が担当するか難しい。

###### (オ) 近隣中学校の状況

- ・学校説明会で詳しく説明しているので、徐々に理解が深まっていると考えている。

##### イ 近隣中学校（20校）へのアンケート

###### (ア) 単位制高校の取組として良いもの（各中学校2つまで）



###### (イ) 中学校からの意見（抜粋）

- ・卒業後の進路希望および興味・関心に対応した多様な選択科目を設定することにより、高校生がさらに主体的に学習を進めていけるような取組を期待します。
- ・生徒の自主性を育てる上で単位制高校はとても良いと思います。また、高校卒業後の進路について単位制としたことで、どのように変化したのかを中学校に示していただけると中学生が選びやすい。
- ・進学重点校をさらに増やし、単位制を導入してさらに大学との連携を進めてほしい。
- ・単位制という形にはなっているが、学年制とあまり変わらないのが現状のような気がする。

## (5) 中高一貫教育校（東葛飾中学校）

### ア 当該校への聴き取り（抜粋）

#### (ア) 「中高一貫教育校」の目標や特色

- ・互いに高め合う、系統化された一貫教育で豊かな人間力を培う。
- ・伝統、実績、真の学びで揺るぎない学力を育む。

#### (イ) 学習への取組

- ・全教科科目での授業態度は良好である。特に自分の得意な科目や分野での取組は目を見張るものがある。逆に、苦手な科目や分野では消極的な姿勢が見られる時もある。

#### (ウ) 「中高一貫教育校」設置の成果

- ・高校入試がないため、時間にゆとりがあるとともに、知識を詰め込むような授業ではなく、アクティブラーニングを実践することができた。
- ・東葛飾高校のリベラルアーツ講座を中学生も受講でき、教養を高めることができた。

#### (エ) 現在の課題

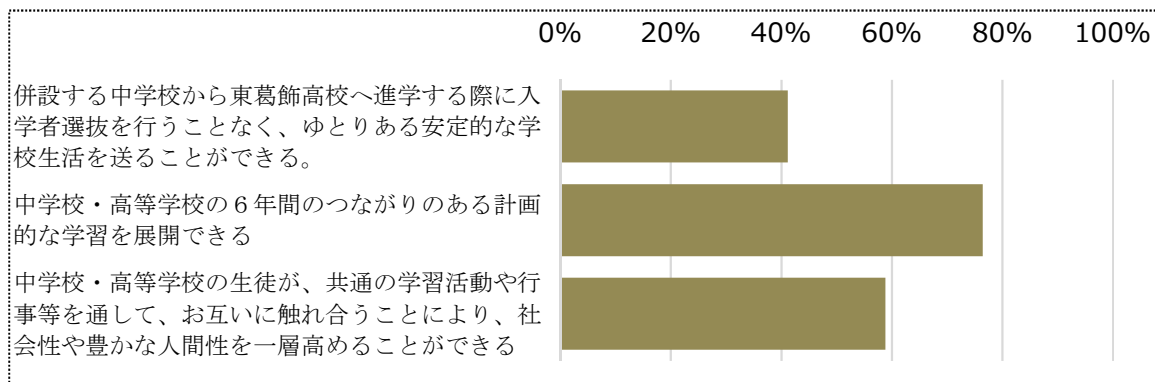
- ・中学校と高校の職員や施設の円滑な連携に向けた取組の体系化が必要。
- ・行事や部活動の充実を求める声が挙がっている。

#### (オ) 近隣小学校・中学校の状況

- ・近隣の小学校や中学校との交流がほとんどないため、理解や評価はわからない。

### イ 近隣小学校・中学校（26校）へのアンケート

#### (ア) 「中高一貫教育校」の取組として良いもの（各小学校・中学校2つまで）



#### (イ) 小学校・中学校からの意見（抜粋）

- ・中高の教育課程がつながり、受験を目的としない生徒の能力、個性を伸ばす教育を実施し、公立中高にもその成果や事例を共有してほしい。
- ・学力の高さを求めるだけでなく、リーダー性のある、文武両道の子どもを育ててほしい。
- ・中高で生徒の交流だけでなく、教職員の交流を積極的に行うことで、生徒の指導にも役立ち、教職員のスキルアップ、授業力向上にもつながる。
- ・県立中学校が増えることで幅広い中学校の選択ができるようになる。目的をもって中学校を選ぶことができれば、教育の住み分けもできるようになる。

### 3 外部・関係団体の意見

#### (1) 意見聴取先（五十音順）

##### ア 全般的に聴取した団体

- 千葉県高等学校PTA連合会
- 千葉県高等学校長会
- 千葉県中学校長会
- 千葉県町村教育長協議会
- 千葉県都市教育長協議会

##### イ 学びや学科等について聴取した団体

- 柏市教育委員会〔中高一貫教育校〕
- 亀田医療大学〔グローバル化に関する学び〕
- 教育と探求社〔中高一貫教育校〕
- 山武市教育委員会〔グローバル化に関する学び、単位制〕
- 山武市社会福祉協議会〔グローバル化に関する学び〕
- 山武市役所〔グローバル化に関する学び〕
- 山武市立成東小学校〔単位制〕
- 城西国際大学〔単位制〕
- 税理士法人 Tax Café〔中高一貫教育校〕
- 千葉市動物公園〔理数工学科〕
- 千葉大学〔総合学科〕
- 日本大学理工学部〔理数工学科〕
- パラマウントベッド千葉工場〔グローバル化に関する学び〕
- 松戸市教育委員会〔総合学科〕
- 松戸市立横須賀小学校〔総合学科〕

#### (2) 主な意見

##### ア 全体を通しての意見（魅力ある学校づくりに係る意見を含む。）

- ・次期プランの策定には、キャリア教育を推進することが望ましい。また、アクティブスクールなど子どもたちが学校に行きやすい環境の学びをもっと取り入れるべき。
- ・各学科とも各家庭の経済状況に関わらず、成績優秀、向学心に富む生徒に対し、給付型の奨学金を導入すべき。
- ・農業など専門学科は、職業的な重要性和ともに、夢や希望をしっかりと持たせる。
- ・全県下（とりわけ太平洋側に位置する高校）の普通科高校で、より特色のある教育実践が大切。
- ・社会的な状況からすれば、統合は仕方ないが、寮をつくるなどの工夫が必要。普通科ではなく、さらに特色のある学科、コースをつくる必要がある。
- ・偏差値に依らない、生徒がプライドを持っていける学校があるといい。農業や工業など専門学科を選んだとき、その先に何がつながるか、光が見えるかが大事。
- ・何がやりたいのか、この学校なら何ができるかを求められている。



- ・中学校側は、学校を変えるという動きを好意的にとらえている。
- ・基礎的な内容を教える学校の評価が高い傾向にある。
- ・農業や工業などの専門学科への希望は一定数いるので、残してほしい。
- ・学び直しはよい取組。通信制には潜在的ニーズがある。
- ・農業、工業などは将来にもつながる学び。偏差値で行かされた学校より、学びを職業に活かせる学校に、誇りを持てるような学校であるべき。
- ・夢と希望を持たせる、そのコースに行けばその先が見えることを明確化することが大事。
- ・ものづくりを大事にする教育が重要。
- ・普通科では将来の展望が見えない。地域と核になった体制づくりをすべき。
- ・高校段階で理数科など専門性を持たせることの意味について検証した方がいい。
- ・子どもが将来の職業選択を明確に持っていないとコースを選択できない。中学生は高校選択の目を持たなくてはいけない。
- ・郡部では、地元へ人材が定着するコースをつくるしかない。
- ・定時制は効率で考えると縮小せざるを得ないが、果たしてそれが教育なのか。
- ・特別支援学校の分校を高校につくるべき。併せて福祉コースをつくれればいい。
- ・親の格差で、既に学力の二極化が進んでいる。その中で、今の子ども達は、昔の子ども達と違って、多くの情報を入手できるようになった。昔は「知らないと損をする」時代であったが、今は「情報をもっていると得をする」世の中になったと思う。学校でもさらに基礎知識を教えて欲しい。
- ・中学3年生の段階で、将来の職業を決めることができるのか。この段階で判断することは、難しいと感じる。高校生になれば、決められるかもしれない。大人でも転職することがある。専門学科に決めてしまうよりも、コース制であれば、選択肢も広がり良いと思う。ただ、若い時に1つのことに集中することも必要である。将来につながる。
- ・「将来を見る目」を育てるのは、高校生からでは難しい。小中学校の時に学ばせて欲しい。
- ・担当の先生の頑張りや、凄く大切だと感じた。連携を進めていく上で、高校側にキーマンとなる先生や熱心な先生がいるか、いないかで生徒の学びも変わってくる。また、そういう先生を学校がどう育てていくかも大切な要素である。
- ・千葉県の中には魅力的な地域はたくさんある。全部に力を入れようとするとうまく分散する。力の入れどころとそうでないところを分けて考えないと難しい。それを上手に采配できると良い。全体的にパワーダウンする。
- ・県と大学が連携して人材育成をし、大学、就職までを含めた連携の流れができると良い。

#### イ グローバル化に関する学び（松尾高校）についての意見

- ・グローバルの学びが、将来どう役に立つのかは分からないが、教育を受けた子が、卒業後、学んだことを生かして、どう進んでいくのか。その道に進んでいってくれたら嬉しい。
- ・福祉コースの設置について、働く人が増えることは、工場としてもメリットが大きい。介護施設はあっても、そこで働く職員がいない。そのため、ベッドも売れない。施設で働く人が増えれば、施設はあるので、ベッドが必要となる。また、工場は、ものをつくる、つくれる人材が欲しい。
- ・「国際的な高齢化」について、当社だけでなく、色々なところで勉強をしていると思う。しかし、どんな学びをしていたのかは、分からない。また、学びについて、成果の見極めは、どうするのかを知りたい。

- ・山武市に住む高校生だけでなく、山武市へ通う生徒も山武市へ関心をもってくれるようになったと感じる。子どもが変われば、地域も変わる。「松尾駅の近くにある学校」ではなく、「山武市の松尾高校」に通っているという意識をもって欲しい。
- ・若い世代が地域のことを考えてくれることで、市民は心強いと感じている。そのため、市民が松尾高校の取組を認識し、「地域の学校」として、関心をもつようになった。市民の松尾高校に対する評価も上がっている。
- ・SGHをきっかけに、会議に学校も参加してもらえるようになった。連携をとおして、生徒は福祉についての目的を持ち、考え、行動する姿が見られるようになった。それが人間としての成長になったと思う。
- ・SGHの指定がなくても、地域とのつながりをもつ機会を設けて欲しい。また、担当の先生の異動や、福祉が専門外の先生が担当になるかもしれない。それでも、変わらず続けて欲しい。県からもできる範囲で支援をお願いしたい。
- ・高校が続けてくれるのであれば、大学としても続けたい。現場のスタッフも受け入れについて、多忙感を感じていると思う。それでも受け入れたいと思っている。それは、将来一緒に働く仲間を増やしたいこともあるが、スタッフのモチベーションが上がる。初心に戻る。また、人にもものを教えることで、自分の成長につながると考える。さらに、施設は高齢者が多いので、学生が来ると喜んでくれる。受け入れる側にも効果がある。
- ・市では、「グローバル社会で活躍できる人づくり」を目標に、異文化理解力、英語等の語学力の向上に努めていることから、地域の高校において同様の取り組みを行っていただくことは望ましいものと考えます。このため、松尾高校が行うグローバル化に関する学びは地域教育にとっても有効であり、引き続き推進いただきたい。
- ・松尾高校の目指すグローバル人材の育成と松尾地域の活性化がうまく融合していくことが期待されます。地域から考えるグローバルエイジングをさらに実践していくことにより、地域への貢献度が高められます。なお、グローバル化に関する学びについては、具体的な施策及びその成果を示していくことにより、地域及び保護者等の理解、認識も深まるのではないのでしょうか。
- ・SGHの指定が終わった後、どうするかとあるが、通常どおりにやっていけばいいはず。事業ありきでは厳しい。
- ・SGH後の取組について、予算的措置を含め対応が可能なのか。
- ・地域で活躍するグローバル人材の育成と絡めて評価した方が良い。

#### ウ 理数工学科（千葉工業高校）についての意見

- ・連携を図る上で、関係者に旅費が支給されないことや、装置を製作するための予算的な措置がないことが課題である。
- ・生徒は優秀で真面目な生徒であり、積極的で、色々な提案をしてくれることに感謝している。お互いにウィンウィンの関係であり、この関係は継続していきたい。
- ・大学などの関係機関との連携をこれまで以上にレベルアップしていく必要がある。
- ・大学での研究、実験等について、最先端の技術を体験させることで、興味・関心を持たせることが大事である。特に、理数工学科の生徒は大学進学を意識している生徒が多いため、その辺りの心構えを意識させることが大切である。
- ・工業高校の卒業生は、大学1、2年生では数学、物理等の基礎科目で苦勞している傾向にあるが、3年生以降の具体的なものづくりの作業では活躍する傾向にある。

- ・理数工学科は実践型の授業展開をしているため、興味・関心が高められ、「自分でもできる」と自信を持ち、リーダーシップを発揮することができる生徒が多い。
- ・高校在学中に課題研究で飛行機の翼について研究した生徒がいた。自分で計算式を立て、設計した翼を本学の風洞実験室で空気抵抗の専門的な実験データを測定したが、不十分な部分もあり、より専門的に勉強したいと興味を高め、本学に入学してきた。今後、どれだけ伸びるか追跡調査していく。
- ・施策と生徒の満足度に差があると本末転倒の感がある。何のために設置したのか。十分なアナウンスが必要。
- ・進学を意識した専門学科であるので、ものづくりを意識したうえで、上級学校に進んでいくという取組にしていかななくてはならない。

## エ 総合学科（小金高校）についての意見

- ・中学校から職業意識を持たせるならいいが、高校に入ってからであると厳しい。中学校からのキャリア教育が必要。
- ・「多様な」進学希望に対応する総合学科ということが大事。したがって、生徒の「多様な」ニーズに応えるということにしないと、総合学科をつくった意味がない。
- ・今後の取組の方向性について、「課題研究」に限定するのではなく、設置したコンセプトと併せて、もっと大きな方向性があるのではないか。
- ・知識注入型の授業と比べ、教員の指導力・生徒の問題解決能力の育成が重要である。また、受験との有用性にやや課題が残る。2020年以降の入試制度の改革などから展開方法も変化するものと思われる。
- ・東葛飾地区では、総合学科に対するアレルギー反応はなく、小金高校の「進学を重視した総合学科」も定着してきたのではないかと思う。今後、普通科の多様化（系列化の進行）が話題になる中、普通科から転じた総合学科の立ち位置も重要になるのではないかと思う。
- ・入れたからには押し出すところの出口保障が課題。
- ・4つ目の系列（芸術文化）をどう吟味し、ニーズに応えるか、そこに専門科目を配置できる総合学科の旨みを課さないといけない。
- ・「産業社会と人間」が教科として、教育課程上、置かれているのが大きい。「産業社会と人間」は進路指導と結びつく。
- ・総合学科を知らない生徒が1割もいることに驚いた。また、満足度でも否定的な回答が2割と高い。さらなる分析が必要。
- ・「産業社会と人間」、「課題研究」について、外部評価を踏まえて充実させることが必要。大学への学びの継続という視点から、目的を明確にすべき。
- ・市内に小金高校が総合学科として加わることで、中学生の選択肢が広がった。
- ・小学校との連携による取組で、将来、教師になりたいとか、強い目的意識を持った生徒が来るようになった。

## オ 単位制高校（成東高校）についての意見

- ・「つくもタイム」は教職という場に限られてはいるが、生徒のキャリア教育・職業選択としての十分な時間・経験にはなっていると思う。
- ・授業を見て、少人数で学習している教科も多くあった。単位制の導入による効果だったと考えられる。結果として学力向上や学習への興味・関心の高まりに繋がっていれば、良い取り組みと評価してよいと思う。

- ・学年制との大きな変化をつけることは現状では難しいと考えている。一部単位制のような制度で進めていく方向が良いのではないかと考える。
- ・「つくもタイム」の「ヘルスケア基礎」では大学の研究室を見せたり、「異文化交流」では留学生との交流を含めて対話を行ったりしている。キャリア教育の形成としてはぴったりである。
- ・成東高校で展開している「つくもタイム」を、他の学校で展開できるかという点、厳しいと思う。大学と成東高校が近いこともあるが、単位制によることも大きい。
- ・単位制となって科目数が増えただけで、結局何が良くなったのか。
- ・総合学科と比べると、同じ多様なニーズで評価が弱いのではないかと。
- ・単位制は学年に縛られていないので、もっと工夫ができるのではないかと。

#### カ 中高一貫教育校（東葛飾中学校）についての意見

- ・生徒は利発的で、素直である。また、考え方や発想が豊かで、授業も物怖じせず、探究心をもって「学び」を楽しむ様子が伺える。
- ・クラスは、雰囲気が大変良く、仲間を受け入れる体制ができている。お互いを高め合い、切磋琢磨する姿も見られる。その反面、個になると、大人し過ぎる。また、反応が大人びている。1人ずつ訊くと答えるが、集団になると、なかなか反応しない。目立たないように、周りを見て答える姿が見られる。
- ・一貫校だと、幅広い年齢層によるコミュニケーションが図られ、良い刺激を受けやすくなる。机上の勉強だけではない、いろいろなことを学べる良さがある。
- ・教員の中にも、「新しいものにチャレンジしたい」という意識が高く、前向きである。その思いが生徒にも表れていると感じる。
- ・東葛飾中高一貫教育校は、学校の魅力、例えば「進学だけではない。」を強調している。千葉中高一貫教育校との違いをしっかりと打ち出すことができている。
- ・教科連携など、中高の先生方の関わりがもっとあると良い。人が集まれば、良いアイデアも生まれる。一貫校ならではの連携の仕方があると思う。
- ・柏市内小中学校と交流する場を設定することにより、お互いに刺激し合い、良い学び合いが生まれるのではないかと。
- ・柏市で勤務していた教員が東葛飾中に異動しているので、学校間交流も可能ではないかと。
- ・こういう中高一貫教育校を増やして欲しい。6年間の一貫したカリキュラムのもと、中学校での積み上げが高校でも活かせる。先を見通せる良さもある。また、高校受検がないため、時間にゆとりがあり、のびのびと学習することができる。学力以外の場面でも、例えば、部活動で「自分らしさ」を見つける時間が増えると思う。
- ・東葛飾中高一貫教育校は、ぜひ一貫校の模範校となって欲しい。仕組みを確立して欲しい。「この先生がいないとできない。」は、避けて欲しい。
- ・中高一貫教育校こそ、キャリア教育ではないか。6年間で専門的な知識を身につけることができる。将来的に職業観を持たせるためには、進学校ではなく、特色のある学科、コースのある学校に設置すべき。
- ・中学校と高校の連携は課題。県立中学校の3年間しか目が向いていない。高校から内進生と外進生が互いに切磋琢磨して、自己の向上に努めるという方向性にした方がよいのではないかと。

## 4 基礎データ

### (1) 志願状況

#### ア グローバル化に関する学び（松尾高校）

[普通科]

年度	募集定員	前期選抜			後期選抜			備考
		予定人員	志願者数	倍率	募集人員	志願者確定数	倍率	
H27	160	96 (60%)	178	1.85	64	82	1.28	
H28	160	96 (60%)	161	1.68	64	78	1.22	学び導入
H29	160	96 (60%)	130	1.35	64	65	1.02	
H30	160	96 (60%)	148	1.54	64	68	1.06	
H31	160	96 (60%)	132	1.38	64	61	0.95	

#### イ 理数工学科（千葉工業高校）

[理数工学科]

年度	募集定員	前期選抜			後期選抜			備考
		予定人員	志願者数	倍率	募集人員	志願者確定数	倍率	
H28	40	40 (100%)	54	1.35	-	-	-	学科設置 ※前期選抜のみ で充足
H29	40	40 (100%)	26	0.65	13	6	0.46	
H30	40	40 (100%)	32	0.80	9	6	0.67	
H31	40	40 (100%)	46	1.15	-	-	-	※前期選抜のみ で充足

#### ウ 総合学科（小金高校）

[総合学科]

年度	募集定員	前期選抜			後期選抜			備考
		予定人員	志願者数	倍率	募集人員	志願者確定数	倍率	
H27	320	192 (60%)	520	2.71	128	266	2.08	
H28	320	192 (60%)	522	2.72	128	241	1.88	学科設置
H29	320	192 (60%)	567	2.95	128	270	2.11	
H30	320	192 (60%)	544	2.83	128	244	1.91	
H31	320	192 (60%)	560	2.92	128	286	2.23	

工 単位制高校（成東高校）

[普通科]

年度	募集定員	前期選抜			後期選抜			備考
		予定人員	志願者数	倍率	募集人員	志願者確定数	倍率	
H27	240	144 (60%)	300	2.08	96	138	1.44	
H28	240	144 (60%)	281	1.95	96	131	1.36	単位制導入
H29	240	144 (60%)	280	1.94	96	122	1.27	
H30	240	144 (60%)	290	2.01	97	137	1.41	
H31	240	144 (60%)	267	1.85	96	137	1.43	

[理数科]

年度	募集定員	前期選抜			後期選抜			備考
		予定人員	志願者数	倍率	募集人員	志願者確定数	倍率	
H27	40	32 (80%)	44	1.38	8	10	1.25	
H28	40	40 (100%)	42	1.05	9	8	0.89	単位制導入
H29	40	32 (80%)	38	1.19	9	10	1.11	
H30	40	32 (80%)	64	2.00	10	13	1.30	
H31	40	32 (80%)	43	1.34	8	10	1.25	

才 中高一貫教育校（東葛飾中学校）

年度	募集定員	志願者数	倍率	備考
H28	80	1157	14.5	中高一貫教育校設置
H29	80	956	12.0	
H30	80	820	10.3	
H31	80	927	11.6	

(2) 平成 30 年度 (平成 31 年 3 月末) 進路状況

ア 「グローバル化に関する学び」を導入した松尾高校の卒業生

種 別	人数	割合	主な進路先	(参考) H26 年度 割合
大学・短大	46	28.8	東洋大学、日本大学、二松学舎大学、亜細亜大学、 拓殖大学、東海大学、和洋女子大、国際医療福祉 大学	29.9
専門学校等	61	38.1	日本医科大学看護専門学校、旭中央病院附属看護 専門学校、千葉調理師専門学校、神田外語学院	40.2
就 職	53	33.1	警察庁、山武市役所、千葉県職員、古谷乳業、 コクヨ、ホンダカーズ東千葉、日本ビューホテル、 パラマウントベッド	26.8
そ の 他	0	0	なし	3.1
合 計	160	100.0		100.0

イ 千葉工業高校「理数工学科」の卒業生

種 別	人数	割合	主な進路先	(参考) H26 年度 割合※
大学・短大	26	72.2 ※9.4	千葉大学、千葉工業大学、日本大学、東京電機 大学、工学院大学、ものづくり大学、東京情報 大学	10.1
専門学校等	6	16.7 ※10.7	国際理工情報デザイン、東京 IT 会計法律、 HAL 東京	12.2
就 職	4	11.1 ※79.9	日本製鉄(株)、日鐵住金建材(株)、デンカ(株)、 ノジマデンキ(株)	72.5
そ の 他	0	0 ※0	なし	5.3
合 計	36	100.0		100.0

※ 電子機械科・情報技術科・電気科・工業化学科の数値

ウ 小金高校「総合学科」の卒業生

種 別	人数	割合	主な進路先	(参考) H26年度 割合
大学・短大	264	81.5	千葉大学、筑波大学、神戸大学、東京医科歯科大学、東京外語大学、慶應義塾大学、早稲田大学、上智大学	85.3
専門学校等	4	1.2	東京医学技術、神田外語、日本外語、松戸市立看護	3.1
就 職	0	0.0	なし	0
そ の 他	56	17.3	進学準備	11.7
合 計	324	100.0		100.0

※系列分野別による主な進学先

系列分野	主な進学先 ※合格者も含む。 ( ) 人数
人文国際	千葉大学・文 (2)、神戸大学・経営 (1)、東京外国語大学・国際日本 (1)、慶応大学・文 (3)、早稲田大学・法 (1)
数理科学	千葉大学・理 (1) 工 (1)、筑波大学・生命環境 (1) 情報 (1)、埼玉大学・工 (1) 理 (1)、上智大学・理工 (1)
医薬看護	東京医科歯科大学・医 (1)、新潟大学・医 (1)、千葉県立保健医療大学・健康科学 (1)
芸術文化	東京藝術大学・美術 (1)、武蔵野美大学・建築 (1)、青山学院大学・文 (4)、立教大学・文 (5)

※AO・推薦入試による入学者数の推移

卒業年度	人数 (AO入試、推薦入試内訳)	学科
平成30年度	35人 (AO 9人、推薦26人)	総合学科
平成29年度	29人 (AO 3人、推薦26人)	普通科
平成28年度	42人 (AO 6人、推薦36人)	普通科
平成27年度	42人 (AO 4人、推薦38人)	普通科



エ 「単位制」を導入した成東高校の卒業生

種 別	人数	割合	主な進路先	(参考) H26 年度 割合
大学・短大	213	76.9	千葉大学、東北大学、筑波大学、慶應義塾大学、早稲田大学、東京理科大学、東邦大学、明治大学、中央大学、法政大学、日本大学、東洋大学、千葉工業大学、神田外語大学	69.4
専門学校等	19	6.9	神田外語学院、東京 I T 会計法律専門学校、大原学園千葉校、千葉中央看護専門学校、旭中央病院附属看護専門学校	4.9
就 職	6	2.2	千葉県職員、山武市職員、千葉労働局（国家）職員、自衛官候補生	2.2
そ の 他	39	14.1	進学準備	23.5
合 計	277	100.0		100.0